

高木復興大臣岩手県・青森県訪問ぶら下がり会見録
(平成28年5月15日(日) 1435～1441 於) 岩手県葛巻町)

1. 発言要旨

本日は、久慈市の闘牛場、総合農舎山形村、葛巻町のワイナリーや葛巻高原牧場を視察させていただきました。

平庭高原では若葉が美しい環境の中、力強い闘牛に多くの観客が沸き、地域を元気づけておりました。

総合農舎山形村では、短角牛など地元産の食材を活用したコロッケなどの食品加工を行って、自立した地域経済をつくる取組を行っております。

また、葛巻のワインは、正に30年前、何もなかったところから、鈴木町長をはじめ、町の方たちが試行錯誤しながらブランドワインにまで育て上げたとお聞きをいたしました。高原牧場では、畜ふんを利用したバイオマスプラント、ミルクハウスでの6次産業化により地元資源を大いに生かした活気ある地域づくりが進められていると感じました。過疎あるいは高齢化、人口減少といった課題は全国の地域が抱えているところではありますがけれども、本日の視察では、そうした課題を地元の資源を上手にお使いになって解決しようとする前向きな取組を拝見させていただいたところでございます。

また、三陸の沿岸のみならず、内陸部にも豊かな観光資源があることを改めて確認をさせていただき、復興庁としては、被災地を課題解決先進地にしようという思いで農業の6次産業化、あるいは観光資源への支援を含め、自立した地域づくりである新しい東北の取組を引き続きしっかり進めてまいりたいと考えております。

また、本年を「東北観光復興元年」として位置づけておりますけれども、東北の広域的な観光も振興も強力に進めてまいります。

私からは以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 東北観光復興元年ということですがけれども、昨日、今日と2日間見て、特に大臣が印象に残って、今後生かしていきたいというお考えになったところはどんなところですか。

(答) 言うまでもありませんけれども、全国各地に、いろいろな魅力があります。しかし、東北というのは昨日から今日にかけて、すばらしい自然というものを感じさせていただきました。それも大きな資源だというふうに思いますし、それから今もそうでありましたけれども、大変おいしいものをたくさん、今回頂くことができました。観光の大きな、これもツールだというふうに思います。

またあわせて、大変温かいおもてなしを頂きました。この温かい人柄というのでしょうか、東北の方々というのも観光の資源という失礼でありますけれども、大いなるこの東北の魅力ではないかというふうに思っています。

「東北観光復興元年」ということで、有識者の皆様方に頂いた提言では、温泉や祭りや雪といったキーワードということではございますけれども、それにあわせて今申し上げたような大変有効な資源があると感じましたので、しっかりとこれから復興庁として東北にも多くの方が、国内外を問わずに来ていただけるように、しっかりと取り組んでいきたいというふうに思います。

(問) その一方で、まだまだ被災地では仮設住宅の生活が続いて、この間も6年間から7年、仮設の使用期間が延びたということもありましたけれども、そういった被災地での支援方法に関して、今後どのように取り組みたいと思われませんか。

(答) 今でもまだ多くの方が避難生活を続けていらっしゃいますことは非常に重いことだというふうに思います。一日も早く恒久的な住まいを御提供できるようにする、これは復興の基本中の基本だと思っています。

そうした被災者の皆様方に寄り添うというようなことについても、被災者支援総合交付金なども非常に拡充をいたしましたし、しっかりときめ細やかに寄り添った形で支援をしていく、あるいは復興をさせていく、それはそれで何よりも大事なことはありますけれども、やはり産業や生業といった面においても、この観光というものは大変有効だというふうに思いますので、並行してそういったことも進めていくというような観点から、今、復興庁として進めているということでございます。

(以 上)